

日本語ボランティア養成講座を訪問しました 新しい日本語ボランティアが誕生します！

佐藤洋子（広報青年部会）

NIA では、在住外国人への日本語学習支援活動（日本語指導プラス関連各行事の開催）に協力できるボランティア育成のために、「日本語ボランティア養成講座」を毎年開講しています。週1回1日3時間、全16回。2018年度は8月30日から12月13日まで、主に菊田公民館において行われました。講師の吉田聖子先生（地域人材育成コーディネーター）のもと、23名の受講生が学びました。

15回目の12月6日、授業を見学にお邪魔しました。講座も終盤ということで、模擬演習の日でした。国や性別の異なる外国人学習者を6名設定し、その役すべてを吉田先生が担当。6名の受講生が順次教室の前に出て、担当した学習者（実際は吉田先生）とペアになって日本語指導をする、という演習です。NIAの日本語教室では、学習者とボランティアはマンツーマンが基本。実際にボランティアになったら、早速1対1で授業しなければならないので、演習する受講生も見学の受講生も本番さながら、真剣です。

「養成講座は、将来実際に教える、をターゲットにしています。日本語ボランティアとして活動するための講座ですが、その根底にあ



吉田先生(左)を相手に1対1で教える練習

するのは、日本語学習者のためにボランティアは何ができるだろうか、という視点です」。

40年以上の日本語教育のキャリアを持つ吉田先生は、そう強調します。

「日本語教室にやって来る人には、それぞれの目的・要望があります。その実現のためには、その人の夢をもっと具体的に落として込んでいくことが必要です。大切なことは、学習者さんはどんな人で、日本語はどの程度か、何をしたいのか、を探り、そこに寄り添う。一般的な日本語のルール、仕組みの説明だけではなく、日本語でできるだけ多く生のやりとりをする。そこにボランティアのいる意味もある、と思うのです」（吉田先生）。

今回の受講生に関しては、「皆さん、とても熱心です。毎回、授業の終わりにその日の感想や疑問を提出してもらいますが、皆さんきちんと返す。その内容が濃い（笑）。こういうことを習ったが、こういうケースではどうか、とか」と、先生。

受講生の一人、清水真由美さんの受講動機は、「知り合った人が日本語ボランティアをやっていて、楽しそうだったから」。でも、講座は「毎回大変でした。宿題があるし(笑)。」



菊田公民館で。吉田先生の講義に聞き入る受講生の皆さん

学習者に沿った授業プランを考える”ということが、なかなか難しかったです」と言います。同じく受講生の坂本兼一郎さんのきっかけは、「市の広報の募集記事を見て。日本語以外の言葉はできませんが大丈夫？と聞いたら、全然 OK と(笑)。いろいろな国の人と知り合っ、将来的には旅をしよう、できたら海外で仕事ができたらいいな、と思って来ましたが、受講してみると、日本語って難しいと改

めて思いました(笑)」。

受講生の方々は、2019 年から日本語ボランティアにデビューします。「少しでも学習者さんの役に立てるようなボランティアになれば、と思います」(清水さん)。「言葉もそうですが、学習者さんの生活に寄り添ったことが一緒にできればいいですね」(坂本さん)。そう、頼もしく抱負を語ってくれました。